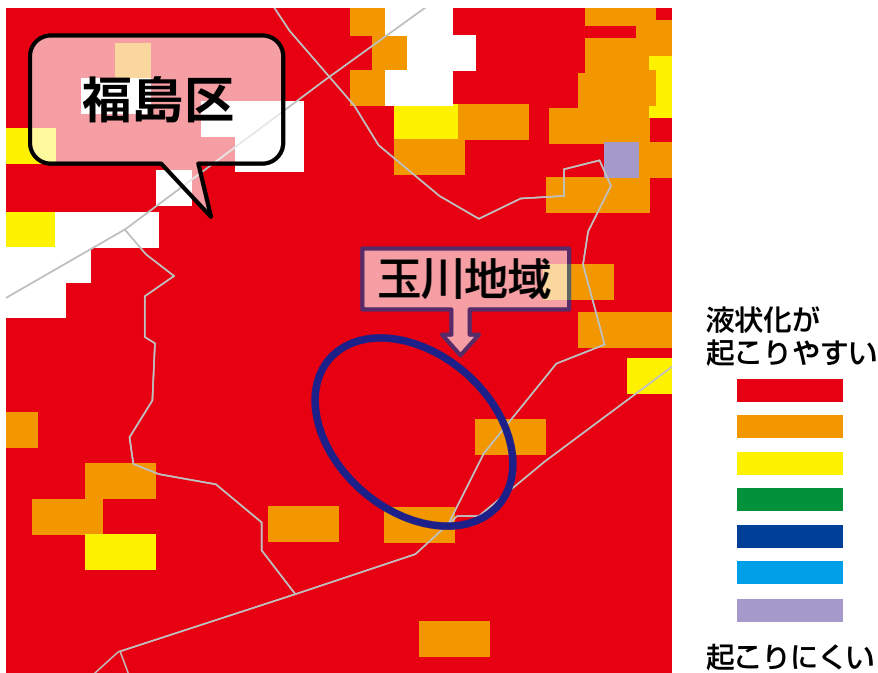


5. 液状化可能性想定図



液状化とは...

液状化現象とは、水を含んだ砂質地盤が、地震の際に液体のように噴き出す現象。建物が倒れたり、砂まじりの水が地表に噴出したり、地盤が亀裂・沈下したり、地下に埋設されている空洞の構造物やマンホールが、地表に浮き上がることもあります。

福島区では、全体的に液状化が起りやすい地域となっています。液状化の被害が出ると亀裂や泥などで容易に通行ができず、避難路であっても機能しにくくなります。

6. 津波被害・河川氾濫・内水氾濫での被害



□南海トラフ巨大地震による津波被害…… 約2.5m(最大) 青色ライン

[マグニチュード9.1程度の地震が発生し、最大クラスの津波による浸水が起きた場合(防潮堤の沈下や防潮施設の開閉状況を考慮)(満潮時を想定)]

福島区では最大3m、玉川地区では最大2.5mまで浸水することが想定されています。

□淀川が氾濫した場合の被害…… 約5.5m(最大) 赤色ライン

[総雨量500mmの降雨(昭和28年9月洪水(台風13号)の2倍の降雨(東海豪雨級の降雨))を想定]

□豪雨などによる内水氾濫の被害…… 約0.3m(最大) 黄色ライン

[総雨量567mm、時間最大雨量93mmの降雨(東海豪雨級の降雨)を想定]

7. 福島区の被害想定

区分	上町断層帯	南海トラフ	生駒断層帯
全壊棟数	木造 2,295棟 非 201棟	木造 589棟 非 40棟	木造 410棟 非 22棟
半壊棟数	木造 2,190棟 非 532棟	木造 1,015棟 非 148棟	木造 712棟 非 113棟
死者数 (早朝)	46名	6名	3名
死者数 (昼夕)	47~49名	6名	4名
負傷者数	1,292~1,464名	634~685名	434~510名
避難者数	5,180名	1,636名	1,134名

(大阪市危機管理室編集)

8. 玉川小学校区の被害想定

区分	上町断層帯	南海トラフ
全壊棟数	木造 187棟 非 26棟	木造 46棟 非 5棟
半壊棟数	木造 148棟 非 60棟	木造 77棟 非 18棟
死者数 (早朝)	7名	1名
死者数 (昼夕)	6名	1名
負傷者数	100~123名	66~81名
避難者数	532名	165名

(大阪市危機管理室編集)

自主防災組織

(地域災害対策本部、避難所運営委員会、町会)

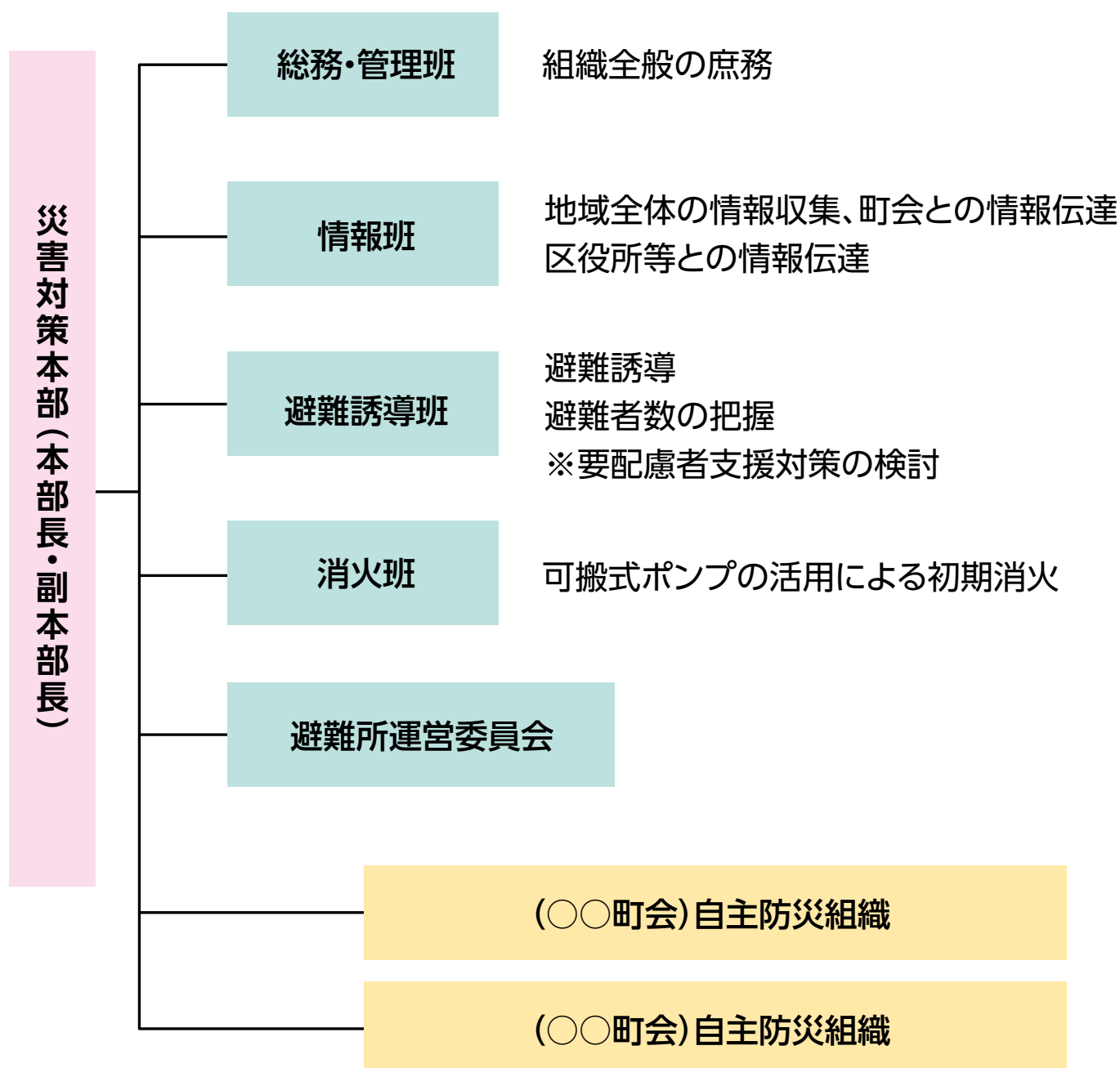
大阪市自主防災活動マニュアル準拠

1. 組織

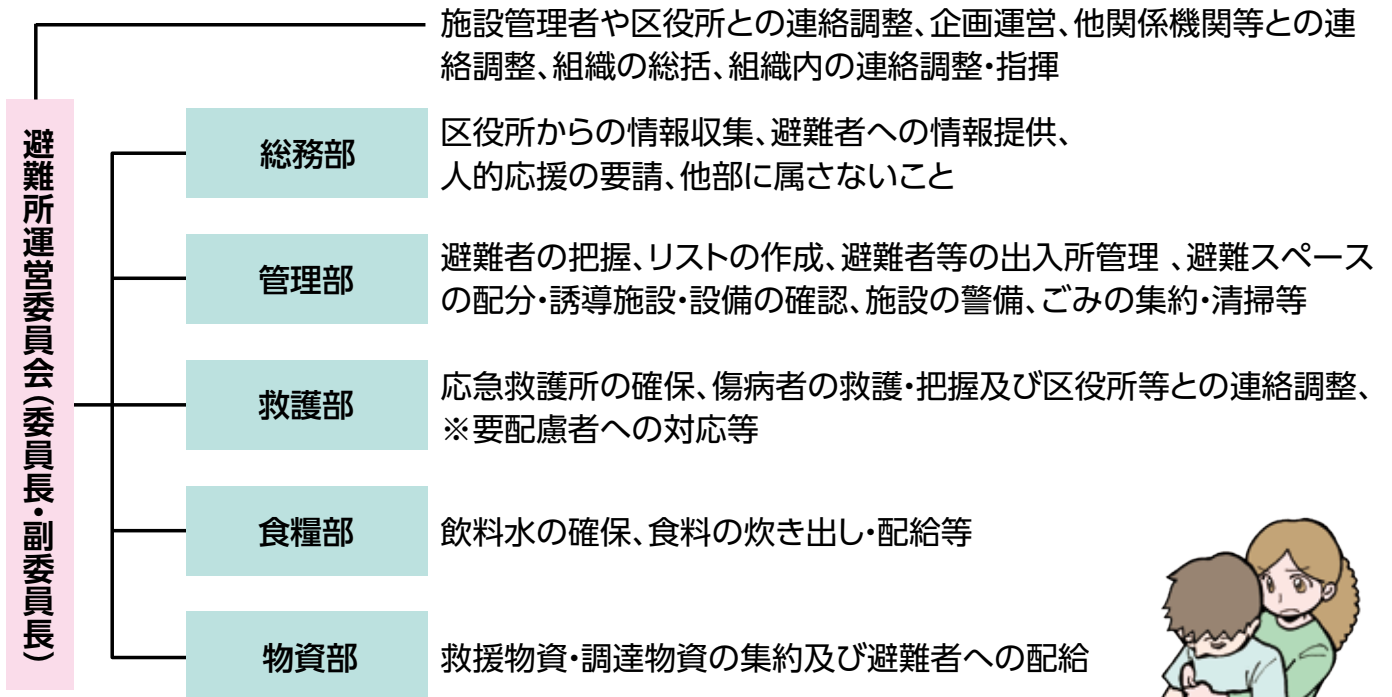
「自分たちの地域は自分たちで守る」という共通の目的で活動する自主防災組織は玉川地域に居住及び勤務する広範囲な人たちで構成する組織とします。

2. 地域災害対策本部の組織図・役割

地域災害対策本部の各班員、避難所運営委員会の各部員は上記の組織員から決定することを原則とします。



3. 避難所運営委員会の組織図・役割



災害時避難所について

①本部・救護所については 20 頁の配置図案の記載通りに定める。

発災時は一旦、住民を一時待機場所(体育館)に待機頂き、避難所運営委員会で配置(部屋割り)を決める。

②配置図では、管理者との調整で、あらかじめ使用出来ないと判明している部屋については斜線で表示している。

③部屋割りに関しては※要配慮者、女性への配慮を考え、設置している。

○※要配慮者：福祉避難室、場合により福祉避難所へ

○女性への配慮：・仮設トイレ(女性用)

・女性更衣室

・女性用物資保管庫

・女性用物干し場 など

※要配慮者とは…高齢者、障がい者、乳幼児、妊産婦など災害時に配慮を要する方

